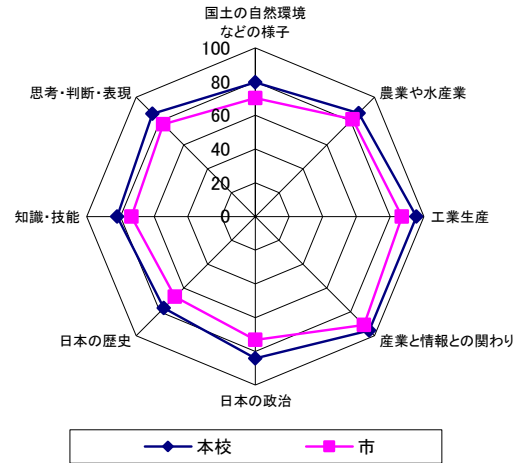


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.6	70.3	66.4
	農業や水産業	86.7	81.6	75.3
	工業生産	95.6	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	95.6	91.0	81.3
	日本の政治	84.2	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	76.8	67.4	68.5
	知識・技能	81.9	73.5	72.5
	思考・判断・表現	86.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○日本の周辺の海洋名を答える問題の正答率は95.6%で、市の平均を10.9ポイント上回っていた。</p> <p>●季節風の特性を答える問題の正答率は70%で、市の平均を11.5ポイント上回っているが、同領域の他の設問の正答率と比べると低かった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・日本周辺の海洋名などの知識の定着を図るとともに、日本の気候に大きな影響を与える季節風の特性について、地図帳を活用して視覚的に捉え、各地域の気候の特色と関連付けて理解を深めていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○米の品種改良の理解をもとに、資料を読み取り表現する問題の正答率は78.9%で、市の平均を12.6ポイント上回っていた。</p> <p>●米の生産が盛んな地域について、地図を読み取り答える問題の正答率は84.4%で、市の平均を0.7ポイント上回っているが、同領域の他の設問の正答率と比べると低かった。</p>	<p>・主要な農産物の産地を白地図で確認したり、地形や気候条件などの地域的特色と結び付けたりする活動を取り入れ、生産地の広がりや正しく把握できるようにする。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より高く、全体の正答率は9割を超えた。</p> <p>○自動車の製造工程について答える問題の正答率は98.9%で、市の平均を10.3ポイント上回っていた。</p> <p>○日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する問題の正答率は90%で、市の平均を12.6ポイント上回っていた。</p>	<p>・情報技術の進展が工業生産や流通、消費者の生活をどのように変えているかについて、具体的な事例を通して多角的に考え、表現する力を養っていく。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○人工林の役割について答える設問の正答率は88.9%で、市の平均を8.9ポイント上回った。</p> <p>●近年日本で起きた自然災害の発生場所について答える設問の正答率は65.6%で、市の平均を5.3ポイント上回ったが、他の設問の正答率と比べると低かった。</p>	<p>・自然災害ごとの発生場所や起きやすい地域を、その地形的特徴と関連付けながら地図で確認し、理解を深めていく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○日本国憲法について答える設問の正答率は93.3%で、市の平均を12.1ポイント上回った。</p> <p>●税金の使い道について答える設問の正答率は78.9%で、市の平均を11.9ポイント上回ったが、他の設問の正答率と比べると低かった。</p>	<p>・税金が使われている身近な施設やサービスを、暮らしを支える公共の役割と関連付けながら具体的に確認し、理解を深めていく。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○江戸時代の禁教と鎖国について適切な資料を判断する設問の正答率は86.7%で、市の平均を20ポイント以上上回った。</p> <p>●鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに資料を読み取る設問の正答率は64.4%で、市の平均を4.5ポイント上回ったが、他の設問の正答率と比べると低かった。</p>	<p>・「ご恩・奉公」と「領地」のつながりに着目させ、鎌倉幕府と御家人の関係を関係図にまとめる活動を通して、構造的に理解を深めていく。</p>